

# ヨコハマ人・まち

～まちへ人がまちをつくる～

発行：横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課  
Tel 045-671-2696 Fax 045-663-8641 E-mail tb-chiikimachika@city.yokohama.jp  
取材・編集：NPO法人 市民セクターよこはま  
Tel 045-222-6501 Fax 045-222-6502 E-mail info@shimin-sector.jp

vol. 34

特集

## 地域の居場所が育むモノ

地域の人が交流するだけではなく、運営に参加し、育ちあえる場所でありたいと思っています。

居場所には、育ちあえる環境があります。

居場所には、おいしい食事と仲間たちがいます。

### 港南台タウンカフェ

居場所には、誰もが気軽に来られる空間があります。

…地域に自分たちの居場所を自分たちでつくる。そんな試みが横浜の様々な場所で行われています。地域の中での「つながり」を感じることが、少なくなってきた今日この頃…あなたも居場所づくりに参加してみませんか？

参加して楽しいと思える場所になるよう心がけています。そして、こういう居場所がポストの数ほど出来たらいいなと思います。

### 多文化まちづくり工房

楽しいと思ったら、何でもやっています。その中で、日々人と人とのつながりの濃さを感じています。

### さくら茶屋 にししば

地域には、人々が集い、語りあう場所が必要です。横浜の様々な地域で、その必要性を感じた人たちが立ちあがっています。地域の居場所は、様々な人の参加と協力を得ながら、地域に必要不可欠な場所へと成長していきます。さらに、居場所は、地域まちづくりの担い手がだんだんと集まり、課題解決に向け、新しいアイデアを育む場所にもなります。

今回の特集では、それぞれ特徴の異なる3つの居場所づくりを紹介します。居場所は、地域にどのような変化をもたらしているのでしょうか。居場所づくりを行う際のコツはあるのでしょうか。この特集を読んだ後は、ぜひ住んでいる地域の素敵な居場所を探してみてください。そして、その居場所づくりに参加しては、いかがですか。

# 港南台タウンカフェは交流するだけでなく 地域の人々が参加し、育ちあう場所でありたい。

港南台タウンカフェ 齊藤 保 さん



港南台タウンカフェ  
〒234-0054  
横浜市港南区港南台4-17-22 ブックスタミ3F  
TEL:045-832-3855  
営業時間:10-19時(日・祝定休)  
<http://www.town-cafe.jp/kounandai/index.html>

JR根岸線港南台駅から徒歩2分。大通りに面したビルの一室に、「港南台タウンカフェ」があります。オープンは2005年10月。運営は、「横浜港南台商店会」「まちづくりフォーラム港南」「株式会社イータウン」の三者が、連携して担っています。今年6月、「港南台タウンカフェ」は、自立運営と多様な人材育成が評価され、まちづくり月間国土交通大臣表彰を受賞。先進的な地域づくりの拠点として、全国的にも大きな注目を集めています。

## 小箱ショップが運営に参加するきっかけに

「人々が集まり、交流するのが従来型のコミュニティカフェ。港南台タウンカフェは、そこから一歩進んで、地域の方が参加して、育ちあう場所でありたい」と「港南台タウンカフェ」の齊藤さんは言います。その言葉のとおり、「港南台タウンカフェ」は、オープン以来、地域の方が参加し、様々なプロジェクトを生み出してきました。

そんな想いを象徴する事業の一つが、「小箱ショップ」です。店内の壁面にある小箱のように仕切られた棚にはそれぞれオーナーがいて、自分の作品を販売しています。オーナー同士のミーティングなどを通じて、オーナーは自然とタウンカフェ全体の運営に参加するようになっていきます。小箱ショップは、「港南台タウンカフェ」の運営に大きな役割を果たしています。

## まちが育つ場所であり、人が育つ場所

多くの学生ボランティアやインターンが活動に関わっていることも、「港南台タウンカフェ」の特徴です。フリーマーケットを中心とした「港南台テント村」では、大学生ボランティアの企画したコーナーに沢山の子どもたちが集まってきました。そこでは、自然と世代間交流の場が生まれています。タウンカフェに関わった多くの若者が、仕事をするものの責任感や、様々な人と交流することの楽しさ、イベントをやり遂げる充実感を得て、大きく成長しているようです。「港南台タウンカフェ」は、地域づくりの拠点であると同時に、人が育つ場所としての役割も担っているのです。拠点づくりは、ハードとしての場所づくりがゴールだと思ってしまうがちです。しかし、大切なのはその拠点で何が生まれるのかということです。ハードとしての場所づくりはスタートに過ぎないことを、「港南台タウンカフェ」の5年間の歩みと今日の姿が、教えてくれるような気がします。



上=落ち着いた雰囲気店内、中=つつい手を出してしまうお菓子のディスプレイ、下=キャンドルナイトのイベント用に集めているたまごの殻



左=事務所の隣のスペースは地域の人が集う場所、中=日本語教室は小学校も使っている、右=いちょう団体の俯瞰写真

「日本の社会が忘れたものを持っているような気がする」と「多文化まちづくり工房」の早川さんが語る「いちょう団地」は、相鉄いずみ野線いずみ野駅からバスで20分。横浜市泉区と大和市にまたがる3300世帯の大規模団地です。1998年まで大和市に難民定住促進センターがあったため、団地全世帯のうち約16%が外国籍世帯(平成21年3月現在)、団地内にある「いちょう小学校」は全児童の約67%(平成22年5月現在)が外国につながるという特徴を持つ地域です。この地域で「多文化まちづくり工房」の早川さんは、団地の近くのビルの一角に事務所を兼ねて、地域の居場所をつくっています。私たちが取材をした時も、高校生が勉強ついでにおしゃべりをしていました。

### 長い道りを経て、ようやく生まれた地域との信頼関係

早川さんが大学時代に始めた日本語教室は、様々なニーズを取り込み拡大し、16年目を迎えました。現在の活動は日本語教室だけにとどまらず、小学生補習教室、中高生補習教室・進路相談、さらには生活相談、多言語情報発信、各種翻訳、災害時訓練・外国籍住民防災リーダー「TRY angels(トライエンジェルズ)」、「多文化サッカー」、そして「いずみ多文化ネットワーク」への参画・「多文化共生交流会」の開催等、様々です。定住志向の強い外国籍住民が必要とする活動をすばやくキャッチし、様々な人の意見に耳を傾け活動を続けてきました。それぞれの活動のきっかけは、「楽しいことは何でもやろう!」です。ここまでの長い道りを経て、ようやくこの2、3年の間に、学校や消防署と一緒にいろいろな活動を行うようになりました。10年以上かけ、様々な人とのつながりや関係性が蓄積され、つなぎ役を果たせるようになってきたそうです。「でもまだ途中。やることはまだまだある」と早川さんは言います。



いちょう団地内の看板は、6ヶ国語で書かれているものもある。

### 地域の居場所は人材を蓄積する器

かつてここで学んだ子どもたちが、通訳などのサポーターとして関わってくれることもあり、対象者と支援者の境目があまりないそうです。

また、ここで育って、保育士や会社員など社会人になった若者たちも時々ここを訪れます。その姿が子どもたちの目標となるようです。早川さんは「この居場所があるから、頑張った子どもを次の子どもたちの目標として顕在化させることができる」と言います。

### 「自分にとって居心地の良い場所でもあります。」

「いちょう団地という場所が、自分にとっても居心地の良い場所です。他のまちでは感じる事のない人と人のつながりの濃さがあります。昔の日本にあったであろうものがここには残っています」と早川さんは言っていました。そのような対象者と支援者という枠組みのない関係が、居心地のよい人の集まる居場所づくりのカギかもしれません。



#### 多文化まちづくり工房

〒245-0018

横浜市泉区上飯田町3173メイブレ中和田2-A

TEL:045-805-4323

<http://tmkobo.com/modules/d3blog/>

戻って来られる場所があるから、  
地域の人材が蓄積し、子どもたちの目標にもなる。

多文化まちづくり工房 早川 秀樹 さん

# 「毎日来られる場所があればいいな」 という思いをカタチにしました。

さくら茶屋 にししば 岡本 溢子さん



## さくら茶屋 にししば

〒236-0017

横浜市金沢区西柴3丁目17-6

TEL:045-516-8560

営業時間:月～土 10-18時(祝日営業)

<http://love-nishishiba2009.cocolog>

[-nifty.com/blog/](http://love-nishishiba2009.cocolog)



京急金沢文庫駅から徒歩15分。小高い山の上に、「さくら茶屋 にししば」があります。ヨコハマ市民まち普請事業を活用して、商店街の空き店舗を改装し、地域の人々が気軽に集まることのできる場所を、今年の5月17日にオープンしました。運営をしているのは「西柴団地を愛する会」。もともと17年前から「西柴団地福祉サービス」で活動を行ってきた代表の岡本さんは「単発ではなくて、継続的にいつでも立ち寄れる場所の必要性を感じていた」と言います。その思いを共有して、有志で10人ほど集まったことが、居場所づくりへの挑戦のきっかけでした。

## 朝から晩まで、いつでも誰かがいる。

さくら茶屋の始まりは、7時半の「朝塾」です。「朝塾」では、ベテランの元小学校教師が講師にあたり、小学生を対象に30分の授業を行います。8時から10時の間は店を閉めて、10時から喫茶タイムが始まります。昼食の時間になると、曜日毎に替わる素敵なランチメニューを食べることができます。彩りも美しく、スタッフの方々のセンスが伺えます。お昼以降は、曜日によって、育児相談や会食、趣味の教室（鎌倉彫・アロマセラピー・英会話）など様々なイベントがあります。また、月に1度、17時から21時に「西柴の歴史」「懐かしの映画」などについて、地元の講師を招いて話してもらっている「西柴夜話」があります。

このように朝から晩まで、さくら茶屋にはいつも人がいます。これもすべて、西柴に住むボランティアの方に支えられています。

## 「とにかく楽しくやることを大切にしています。」

たくさんの方のボランティアの方に支えてもらえる運営のコツを伺うと「とにかく楽しくやることを大切にしています」と岡本さんは言います。スタッフの方が楽しそうに動いている様子を見て、運営に参加しようという方も多ようです。楽しくやるためには、「お互いに良いところを見るようにして、認め合うこと」が大事なようです。

さくら茶屋は、居場所としてしっかりと役割を果たしながら、心地よい空間を提供していました。



上＝地域の住民が参加する小箱ショップ、  
中＝気持ちのよいテラス、下＝西柴夜話の様子

### ●まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取り組みなどの情報を下記までお知らせください。このページ及びメールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

情報提供のあて先：

横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課

Tel 045-671-2696 Fax 045-663-8641

E-mail [tb-chiikimachika@city.yokohama.jp](mailto:tb-chiikimachika@city.yokohama.jp)

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方への転送、お誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申込み・停止は、下記のアドレスからお願いします。

<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi>

★「ヨコハマ人・まち」バックナンバーはこちら

[http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiiikimachi/hitomati/back\\_num/](http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiiikimachi/hitomati/back_num/)